

まちの
懸案課題

過疎地の町民の足を守る「しゃこバス」 初めての「町営バス」の現状と課題を知って！

令和5年9月30日に北海道中央バス(株)が運行する生活交通路線「積丹線」の美国く余別間が、利用者の減少や経営収支の悪化等により廃止となりました。町では、町民の足を守るため、国や道、町内外の交通関係団体等で構成する積丹町地域公共交通活性化協議会を設置して検討を重ね、昨年10月1日から中央バス運行時と同区間を積丹町生活交通バス「しゃこバス」として町営で運行しています。

まもなく1年を迎える町営「しゃこバス」の現状と課題について考えます。

『必要な費用』と『厳しい収支』

「町営バス」の運行には、厳しい法規制の順守やバス・乗務員体制・バス停等さまざまな条件を整える必要があります。

昨年10月の運行から現在までに要した経費については【表1】のとおりです。運行開始にあたり町有バスの有効利用のほか14人乗りバス1台（写真次頁左上）を購入。バスの運行や予約受付等については、民間企業の大新東(株)（東京都）に委託しており、その費用は年間約4千万円です。

「バス停」については、中央

バスより譲渡を受けているた

め、費用負担については生じていないものの、現在52基あるバス停は老朽化しているものも多く、今後その更新が見込まれます。

一方、運営経費には乗車運賃を充てているほか、今年度は北海道の補助金と国の補助金の採択を要請しています。

中央バスが利用者の減少等により廃止を決めたように、運賃収入と補助金を活用したとしても今後の町営バスの運営収支の均衡を図ることは極めて難しい

状況です。

そのため、「しゃこバス」の

全便定時運行や増便などの町民の皆さんからの要望が多いことは町として十分理解しながらも、定時運行便と予約運行便の2つの運行種別を設け、経費の軽減のために効率的な運行に努めているのが現状です。

従来運行していた岬の湯しゃこたん・国保診療所の無料送迎バスについては廃止としました

が、【表2】のとおり従来と比較して、町民の皆さんの利用しやすい運賃設定に努めています。

『しゃこバス』運行の課題

また、町民の皆さんのほか、積丹町を訪れる観光客の両方の移動手段を維持していくため、現状の町営運行が立ち行かなくなる事態は避けなければなりません。

町では令和5年10月から令和6年9月までの1年間を試験運行期間とし、さまざまな課題等を洗い出し、本格運行へつなげていきたいと考えています。

これまで約10カ月間の試験運行では、次のような検討課題が判明しています。

■美国ターミナルでの中央バス運行便との接続対策

夏季間の渋滞や冬季間の荒天等によりバスが遅延し、美国

単位：千円

【表1】主な運行等経費

年度	内容	事業費	財源内訳				
			国費	道費	町費	運賃収入	過疎対策事業債
令和5年度	14人乗りバス購入	5,588			588		5,000
	「しゃこバス」運行委託（半年）	19,371		5,000	13,649	722	
令和6年度	「しゃこバス」運行委託（通年）	※1 39,257	※2		38,603	※3 654	

※1 運行3名・受付1名・管理1名の人件費32百万円、車両・業務管理費7百万円

※2 国費・道費について要請中

※3 6月末時点

【表2】運賃の比較

「美国」発の場合

単位：円

種別	行先	婦美	幌武意	入舸	日司	野塚	来岸	余別	神岬 (神威岬)
北海道中央バス株		310	500	580	620	660	830	880	960
しゃこバス		200	300	300	300	300	400	400	400

【表3】令和5年10月～令和6年6月利用状況

単位：人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
571	406	406	261	358	362	473	679	1,038	4,554



▲令和5年度購入した14人乗りバス

ターミナルでの中央バス運行便との接続ができない心配があります。

■夏季間の乗りこぼし対策

夏季間は利用者が一時的に多くなるため、大型バスでの運行が調整できない便では、満車のため乗車できない懸念があります。

■キャッシュレス決済への対応

本年4月より回数券の発行を開始し、利便性の向上を図っています。観光客を含めてキャッシュレス決済が可能な新たな車両設備等の整備が必要となり、その対策が強く望まれています。

■宿泊者のチェックアウト時間との接続対応

町内の宿泊事業者より宿泊者のチェックアウト時間に合わせたバスダイヤ編成の要望があります。

■バス停の管理対策

バス停は、町の管理となっており、草刈りや除雪など可能な範囲での協力を自治会・町内会へお願いしています。

■「積丹線」(美国・小樽間)の運行存続

中央バスが運行する現在の「積丹線(美国・小樽間)」は、沿線4市町(小樽市・余市町・古平町・積丹町)が収支不足を負担すること条件に運行を続けています。走行距離数や利用者数等から算出した令和6年の積丹町の負担額は約12,000千円です。引き続き、同路線の維持と同負担金の町の財源確保も重要な課題です。

積極的な利用を

今年の試験運行期間中に町へ寄せられたさまざまな声は、対応の可否やその手法等について地域協議会等で検討・協議を行い、実現へ努力をしていきます。

積丹町初の取り組みとなった生活交通バス「しゃこバス」は、利用する皆さんが満足する運行を目指す努力は当然のことではあります。期待に応えられず厳しくお叱りをいただくことが時にはあります。

今後も、町民の皆さんの生活



に不可欠な生活交通を守るため懸命に努力を続けていきますので、積極的なご利用によるご支援をお願いします。

お願い

■夏季間は利用者が増加します。予約運行便の利用にあたっては、利用者数の把握のため、可能な限りご予約の連絡をぜひお願いします。

■各運行便には、予約状況の傾向等を想定して極力皆さんが乗れる大きさのバスで運行するよう努めていますが、どうしても急なバスの手配ができない場合がありますのでご了承願います。

■「美国ターミナル」での中央バス運行便との接続については、可能な限り努力をしますが、道路の混雑状況等により遅延が生じた際は、接続が難しい場合がありますのでご理解願います。

令和6年 例大祭

7月1日の入舸稲荷神社・積丹神社（日司町）・野塚稲荷神社を皮切りに町内各地区で郷土の伝統「例大祭」が行われ、やっこ行列や神輿、山車などそれぞれ特色あるお祭りを地域住民やこの日のために帰省した人々が一丸となって盛り上げました。

威勢の良い掛け声や歓声が飛び交った祭典の一部を写真で紹介します。

※野塚・幌武意地区は市街地の神輿渡御がありませんでした。



積丹



入舸



美国



神威

地域おこし協力隊員 2 名を新たに委嘱！

7月1日現在、13名の『地域おこし協力隊』が委嘱され、町内の団体や事業所で活躍しています。

各隊員の活動内容や今後の目標など隊員を中心に作成の「町おこし広報」（本誌21頁）で掲載しています。

(株) 流山

みねした とうじ
峯下 昂志 隊員

積丹町の気候や環境を活かした肥料や飼料、作物などの生産・活動等を行い、積丹町の経済活動の一助となればと思います。
(青森県弘前市出身)



(株) Y'sAP

やまだ たくや
山田 拓也 隊員

今年、7月から京都より引っ越してきました。北海道らしい自然があふれた環境で自分らしい生活ができるよう、3年間試行錯誤しながらこの町に溶け込めたら良いなと考えています。まずは色々な方とお話しさせてもらったり、いろいろと教えてもらうことが多いと思いますが、よろしくお願いします。
(京都府京都市出身)

第74回 社会を明るくする運動

積丹町作文・標語入選作品

7月10日、第74回「社会を明るくする運動」積丹町住民集会在催され、7月の全国強調月に合わせ、町内小中学生から応募のあった86点の作文・標語の中から9点の入選作の受賞者が表彰されました。

◆作文の部◆

〈中学生の部〉

- 金賞 『約束』
銀賞 『家族への思い』
銅賞 『ポイ捨ては、やめろ!!』

- 美国中3年 **野宮 権人** さん
美国中3年 **飯田 蒼偉** さん
美国中3年 **伊藤 聖椰** さん

◆標語の部◆

〈小学生の部〉

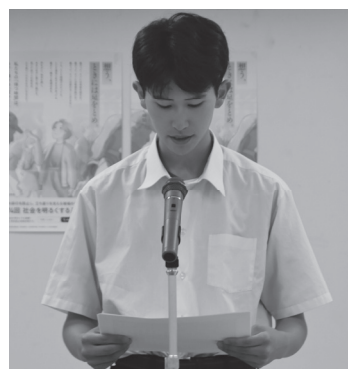
- 金賞 思いやり なかよくなれる 第一ぼ
銀賞 やさしさで みんなの心に 花がさく
銅賞 やさしさは リレーバトンだ パスしよう

- 美国小3年 **松葉 千夏** さん
美国小6年 **長谷川 さい** さん
美国小5年 **石岡 幸汰** さん

〈中学生の部〉

- 金賞 あいさつと 感謝の言葉 自分から
銀賞 人と人 言葉で心を 通わせる
銅賞 反抗期 照れながら言えた ありがとう

- 美国中1年 **野宮 湊輔** さん
美国中1年 **佐藤 飛鳥** さん
美国中3年 **飯田 蒼偉** さん



▲作文の部 金賞
野宮 権人さん (美国中3年)

≪「作文」・中学生の部≫ 金賞受賞作品

「約束」

美国中学校3年 野宮 権人

小さい頃から海・山に囲まれ自然いっぱい場所であつた。年々年中外で遊んでケガをし、カゼを引いていた。そのおかげか、今となっては、めつたにカゼを引かない丈夫な体になった。

父は漁師で仲買人だ。夏はウニをとり、秋・冬にかけては魚を扱っていたり、アワビをとったりしている。6年前に亡くなった祖父も父と同じく漁師で仲買人だった。父も祖父も人のことを大切にして、自分のことよりも、人のことを優先する優しい人たちだ。しかし祖父は僕がまだ保育園児だった頃に、脾臓がんであることが発覚し、余命宣告をされていた。日に日に症状は悪化してゆく一方だったはずなのに孫の前では一切弱った姿を見せずに、いつも元気な笑顔を見せてくれていた。会うたびに変わらぬ優しい姿で、温泉やドライブにつれてくれた。体は病にむしばまれて痛はずだったのに、僕たち孫のために、たくさんのおいし

の頃から僕は祖父は何らかの病気になつてゐるんだと気付いていた。しかし、気付いていたのに認めたくなかった。この先、祖父といつかは「さよなら」をしなくてはならない日が訪れてしまつても、それが病気のせいだと思いたくなかつた。しかし2年後の4月29日早朝、祖父は息を引き取つた。信じられなかつた。もう優しい祖父に会えないこと、話せないということを受け入れられなかつた。葬式で祖父の姿を見たとき涙が出て止まらなかつた。生前、祖父と、こんな約束をした。1つ、自分で決めたことは最後までやり切ること。2つ、困つた人がいたら手をさしのべて助けてあげること。3つなんでも全力でやること。

今年で僕は中3になつた。中学校生活ラストの1年になる。テストに学祭・受験がある。そして何より中体連がある。小6の後半から始めた卓球。今年が最後の中体連になるこれまで何度も、投げ出したくなるこゝろがあつた。それでも、ここまでがんばつてこれた祖父との約束を守るため、これまで支えてきてくれた人たちの期待に応えるべく、僕は今日も全力でがんばる。